

急性前骨髄球性白血病 [APL]

JALSG APL97 Protocol

◎寛解導入療法 [A群、B群、C群、D群 のいずれかを選択]

A群		WBC<3000 μ L かつ APL細胞(芽球+前骨髄球)<1000 μ Lのとき											
		Day	1	2	3	4	5	60	
ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ² 分3	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	最長60日

B群		3000 \leq WBC<10,000 μ L あるいは APL細胞(芽球+前骨髄球) \geq 1000 μ Lのとき											
		Day	1	2	3	4	5	60	
ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ² 分3	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	最長60日
IDR	イダマイシン	12mg /m ² 30min	点滴静注	↓	↓								
Ara-C	シタラビン	80mg /m ² 24hr	持続静注	↓	↓	↓	↓	↓					

C群		WBC \geq 10,000 μ L のとき											
		Day	1	2	3	4	5	60	
ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ² 分3	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	最長60日
IDR	イダマイシン	12mg /m ² 30min	点滴静注	↓	↓	↓							
Ara-C	シタラビン	100mg /m ² 24hr	持続静注	↓	↓	↓	↓	↓					

D群		A,B,C群において、途中APL細胞 \geq 1,000 μ Lのとき以下を追加投与										
IDR	イダマイシン	12mg /m ²	点滴静注	↓	↓							(2日間)
Ara-C	シタラビン	80mg /m ²	点滴静注	↓	↓	↓	↓	↓				(5日間)

◎寛解後療法

地固め第1コース[MIT/Ara-C]				Day	1	2	3	4	5
MIT	ノバントロン	7mg /m ²	30min	点滴静注	↓	↓	↓		
Ara-C	シタラビン	200mg /m ²	24hr	持続静注	↓	↓	↓	↓	↓

地固め第2コース[DNR/ETP/Ara-C]				Day	1	2	3	4	5
DNR	ダウノマイシン*用時	50mg /m ²	30min	点滴静注	↓	↓	↓		
ETP	エトポシド	100mg /m ²	60min	点滴静注	↓	↓	↓	↓	↓
Ara-C	シタラビン	140mg /m ²	24hr	持続静注	↓	↓	↓	↓	↓

地固め第3コース[IDA/Ara-C]				Day	1	2	3	4	5
IDA	イダルビシン	12mg /m ²	30min	点滴静注	↓	↓	↓		
Ara-C	シタラビン	140mg /m ²	24hr	持続静注	↓	↓	↓	↓	↓

PETHEMA LPA-99 Protocol

◎寛解導入療法

		Day	1	2	3	4	5	6	7	8	90	
ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ² 分2	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	最長90日
IDR	イダマイシン	12mg /m ² 30min	点滴静注		↓		↓		↓		(↓)			

◎地固め療法

[Low risk 患者] ①→②→③

		Day	1	2	3	4	
①	IDR イダマイシン	5mg /m ²	点滴静注	↓	↓	↓	↓

		Day	1	2	3	4	5
②	MIT ノバントロン	10mg /m ²	点滴静注	↓	↓	↓	↓

		Day	1	
③	IDR イダマイシン	12mg /m ²	点滴静注	↓

急性前骨髄球性白血病 [APL]

[intermediate または high risk 患者] ①→②→③

			Day	1	2	3	4	5	6	7	15	
①	IDR	イダマイシン	7mg /m ²	点滴静注	↓	↓	↓	↓							
	ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ²	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

			Day	1	2	3	4	5	6	7	15	
②	MIT	ノバントロン	10mg /m ²	点滴静注	↓	↓	↓	↓	↓						
	ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ²	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

			Day	1	2	3	4	5	6	7	15	
③	IDR	イダマイシン	12mg /m ²	点滴静注	↓	↓									
	ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ²	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

◎維持療法

6-MP	ロイケリン	50mg /m ²	内服	2年間
MTX	メソトレキセート	15mg /m ²	筋注または内服	週1回 2年間

ATRA	バサノイド*不採用	45mg /m ²	分2	内服	3ヶ月毎に15日間内服
------	-----------	----------------------	----	----	-------------

トリセノックス 療法

◎寛解導入療法

			Day	1	2	3	60	
As2O3	トリセノックス	0.15mg /kg	点滴静注	→	→	→	→	→	→	最長60日
										骨髄寛解が得られるまで連日

※白血球数>30,000となった場合、イダマイシン12mg/m² 3日間を追加投与

◎寛解後療法

			Day	1	2	3	25	
As2O3	トリセノックス	0.15mg /kg	点滴静注	↓	↓	↓	↓	↓	↓	最長25回
										寛解導入終了後3~6週後より、5週間の間に1日1回、計25回投与

アムノレイク 療法

◎寛解導入療法

			Day	1	2	3	8	
Am80	アムノレイク	1日6mg/m ²	内服	→	→	→	→	→	→	最長8週
										2回に分けて朝・夕食後 骨髄寛解が得られるまで1日2回服用（最大8週間）

アムノレイク 維持療法

			Day	1	15
Am80	アムノレイク	1日6mg/m ²	内服	↓	↓	↓	休	休	休	休	休
										2回に分けて朝・夕食後 14日内服、10週休薬 3ヶ月毎に2年間（合計8コース）投与	

JALSGAPL 205Rプロトコル

BU+L-PAM (autoPBSCT前処置)療法

			Day	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0
BU	ブスルフェクス注	3.2mg/kg	点滴静注	↓	↓	↓				
L-PAM	アルケラン注	70mg/m ²	点滴静注				↓	↓		
										Day0に幹細胞輸注

ATRA+ATO療法

【寛解導入】

			Day	1	...	10	...	60	...	69	
ATRA	バサノイド	45mg /m ² 分2	内服	→	→	→	→	→	→	→	最長60日
ATO	トリセノックス	0.15mg /kg	点滴静注			→	→	→	→	→	
										ATRAとATO共に、完全寛解が得られるまで最大60日間	

急性前骨髄球性白血病 [APL]

【地固め導入】				Week	1					2					
				Day	1	...	5	6	7	8	...	12	13	14	
ATRA	ベサノイド	45mg /m ²	分2	内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
ATO	トリセノックス	0.15mg /kg		点滴静注	→	→	→	休	休	→	→	→	休	休	

Week	3					4				
Day	15	...	19	20	21	22	...	26	27	28
内服	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
点滴静注	→	→	→	休	休	→	→	→	休	休

Week	5					6				
Day	1	...	5	6	7	8	...	12	13	14
内服	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
点滴静注	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休

Week	7					8					→ 繰り返し
Day	15	...	19	20	21	22	...	26	27	28	
内服	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	
点滴静注	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	

※ATRA：2週投与2週休みを計7サイクル（計28週）

①week1-2、②week5-6、③week9-10、④week13-14、⑤week17-18、⑥week21-22、⑦week25-26

※ATO：5日投与2日休みを4週間繰り返し、4週間休み。それを計4サイクル（計32週）

①week1-4、②week9-12、③week17-20、④week25-28